

「エコシティたかつ」の推進に向けた総合的な展開(案)

2009年度から2013年度までの取組

<学校流域プロジェクト>

学校を健全な水循環と生きものの賑わいを再生し支える地域のモデル基地と位置づけ、環境学習を実施する。

- 小学校(14校)と市立養護学校にビオトープ整備 ○環境学習支援

<「たかつ自然の賑わいづくり」事業>

水系や流域等のランドスケープや生物多様性の視点を踏まえ、区内の河川の小流域を単位として、水・緑・生きものの調査を市民協働で実施し、適応策として地域から様々な活動を通じて、保水力・土砂防災力の高い流域づくりへの貢献及び自然の賑わいの回復を目指す。

- 「たかつ水と緑の探検隊」による取組を市民健康の森・緑ヶ丘霊園で実施(生物の生育状況や保水力の状態の調査)
- 調査結果に基づく外来植物の駆除作業・保水力向上の取組

<農的資源を活かしたまちづくりの推進>

「たちばな農のあるまちづくり」を推進する。

- 農産物の紹介販売 ○農業体験
- ファーマーズマーケット「さんの市」の開催
- メサ・グランデ事業の実施

<エコシティホール化の推進>

区役所庁舎を環境展示場「エコシティホール」とし環境学習の場として活用した環境啓発を実施する。

- 屋上緑化 ○壁面緑化(緑のカーテン) ○雨水利用 ○太陽光発電
- 自動灌水装置 ○エコシティホールツアー
- 産学官連携による共同研究(スナゴケを用いた屋上緑化の効果の検証)

<各種普及啓発活動の推進>

今日的な課題に対し、区民向けの各種普及啓発活動を、区民協働(市民・事業者・学校)で実施し、その中で「地球温暖化防止活動推進センター」等との連携を模索する。

- エコ・エナライフコンクール ○緑のカーテン講習会 ○エコシティたかつ応援団
- 「エコシティたかつ」推進フォーラム ○「エコシティたかつ」推進会議
- CCかわさき交流コーナーにおける「エコシティたかつ」パネル設置

<その他>

- 地図による地域環境資源の共有化の促進(立体地形図の作成、ベースマップ作成、ヒートアイランド・クールスポット調査の実施)
- まちなか油田プロジェクト(廃食油の回収、BDFの運行(かえるプロジェクト))
- エコ企業調査の実施(民間企業等7事業所等を視察)
- 行政区レベルでの環境マネジメントの実践的な取組
- 「緑と水でつなぐ 歴史街道 花街道」の推進
- 円筒分水、かすみ堤を活かした「緑の回廊」づくりの推進

成果と課題

- 計15箇所のビオトープを整備し、取組の拠点を作り、環境学習を実施することができた。
- 健全な水循環のモデルとなる取組を推進する必要がある。
- 地域のモデル基地となるよう学校や地域への働きかけが必要である。

- 「たかつ水と緑の探検隊」による、生物多様性・保水力向上について試行的な取組を行うことができた。
- 試行における経験を活かし、生物多様性・保水力向上について実践的な取組を行う必要がある。

- さんの市など、「たちばなブランド」農産物の購入や食事ができる仕組みを作ることができた。
- 援農に対する農家・区民の期待が大きい。
- 区内の農的資源の把握を進める必要がある。
- 農的資源について生物多様性や適応策の観点から評価し、取り組む必要がある。

- 区役所庁舎内において緑化や環境技術の導入を行うことができた。
- 区役所庁舎だけでなく区内公共機関等への面的な広がりを図る必要がある。

- 各種啓発イベント等を実施し、環境意識の向上や「エコシティたかつ」の取組のPRを行うことができた。また、緑のカーテン(ゴーヤ等)についても普及することができた。
- これまでの取組を継続するとともに、関係機関と連携した様々な機会や手法を活用した取組を行う必要がある。
- エコ・エナライフの普及(エコエナライフコンクール)については、新たな取組の手法を検討する必要がある。

今後の取組の視点

- これまでの成果を踏まえ、各プロジェクトを流域思考に基づき「緩和策」、「適応策」、「生物多様性」の視点から、社会状況や自然環境の変化に対応した、面的な広がりや質的な向上を図っていく必要がある。
- 緩和策については、区民や関係団体の取組が充実しており、引き続き連携を行っていく必要がある。
- 適応策と生物多様性については、関係団体との連携により、一層の実践的な取組や普及啓発を推進していく必要がある。

推進方針に基づく2014年度以降の取組(素案)

<学校流域プロジェクト> 適応策 生物多様性

- ビオトープ整備(子母口小、2015年度) ○環境学習支援 ○教職員向け学習会
- ◎学校を流域に見立てた、健全な水循環のモデルとなる取組(雨水貯留・雨水循環の仕組み等)の検討
- ◎地域に開かれたビオトープとするためのボランティアスタッフの育成の検討

<「たかつ自然の賑わいづくり」事業> 適応策 生物多様性

- ◎試行における経験を活かした、「たかつ水と緑の探検隊」における生物多様性・保水力向上の実践(取組場所:緑ヶ丘霊園)

<農的資源を活かしたまちづくり> 緩和策 適応策 生物多様性

- 「たちばな農のあるまちづくり」の推進(「さんの市」の拡充、援農の拡充等)
- ◎区内の農的資源の活用に向けた調査・検討

<生物多様性の視点を踏まえたエコ・コミュニティづくり> 緩和策 適応策 生物多様性

生物多様性の視点から、生き物の生息・生育の拠点となる緑や水を維持・創出するとともに、拠点間における連続性の確保を図るとともに、取組を推進するための関係機関のネットワークを構築する。

- 久地緑地・円筒分水・かすみ堤等を活かした緑の回廊づくり
- 「エコシティたかつ」応援団 ○エコ企業調査
- ◎公園や学校ビオトープ等を活用した取組の推進

<環境技術等の導入の推進> 緩和策 適応策

区役所庁舎の「エコシティホール化」を継続するとともに、区内公共施設や企業等における環境技術や環境に配慮した取組等の導入を推進する。

- 区役所庁舎の「エコシティホール化」の推進
- ◎溝口駅周辺のエコ化の推進 ◎区内公共施設や企業等への導入の促進
- ◎市民主体の各種プロジェクトとの連携

<各種普及啓発の推進> 緩和策 適応策 生物多様性

環境教育・環境学習等を実施し、環境配慮意識を広めるとともに、環境に配慮した取組を積極的に実践する人材を育成する。

- エコシティホールツアー ○エコ・エナライフの普及啓発
- 「エコシティたかつ」推進フォーラム ○「エコシティたかつ」推進会議
- ◎エコシティツアー ◎雨水樽・雨水浸透マス等の普及促進

<区内環境資源等の情報収集・共有> 緩和策 適応策 生物多様性

区内の環境資源や環境関係団体に関する様々な情報を収集するとともに、収集した情報を多様な主体による取組につなげるために、誰もが活用できるようにわかりやすく情報発信する。

- ◎地域の環境資源や環境関連団体の情報収集とマップや模型による情報共有
- ◎ICTを活用した情報発信・共有の検討
- ◎ヒートアイランド・クールスポット調査の展開